

「内務省委託本」調査レポート

第9号：コレクション整備の記録 (2006～2013年度)

2014年3月(報告/河合郁子)

発行：千代田区立千代田図書館

戦前期の日本では、中央官庁の一つであった内務省が出版物の検閲を行っており、全国で出版されたさまざまな本が内務省に納本されていました。1937(昭和12)年頃以降、内務省で検閲業務に用いられた原本の一部が、千代田図書館の前身である駿河台図書館をはじめとする市立図書館4館に委託されることになりました。当館では、これらの資料を「内務省委託本」と呼び、現在約2,300冊が確認されています。

当館の所蔵する「内務省委託本」は、実際に検閲に使用されたもので、内務省の係官が内容をチェックするために引いた赤線・青線、出版の可否についてのコメントなどが残されています。発禁本は含まれていませんが、当時どのように検閲が行われていたのかを知ることができるという点で、出版史上貴重な資料です。当レポートでは、「内務省委託本」の調査研究により明らかとなった新事実について、様々な切り口からご報告いたします。

はじめに

千代田図書館の内務省委託本は、公共図書館が所蔵するコレクションとしては、かなり風変わりなものだろう。図書館の貴重書コレクションによく見られるようなもの、つまり古典籍や千代田区ゆかりの古文書、ではない。千代田区ゆかりの文学者や知識人の旧蔵書が寄贈されたものでもない。戦前に出版された書籍が、戦前・戦後を通して閲覧・貸出に供され、利用頻度が低くなれば閉架書庫に収められてきた。ある程度の歴史を持つ図書館ではごく普通の話であり、何も特別なことはない。千代田図書館もそんな図書館の一つだった。

8年前までは、千代田図書館の内務省委託本は、特別なコレクションと位置付けられてはいなかった。ごく一般的な戦前発行書籍と混在する形で、古いため利用頻度が低くなったその他多くの図書資料と同様に、図書館の閉架書庫で数年に一度あるかないかの閲覧請求を待っていたのである。

ところが、現在では出版史に関心のある人の中で「千代田図書館の内務省委託本」はよく知られた存在になっている。研究者が継続的に図書館を訪れ、調査・研究し、その成果を研究者同士や図書館と共有している。図書館で展示会や講演会を開催すれば多くの方が訪れ、資料集やパンフレット、調査レポートなどの発行物は多くの方に読まれている。

千代田図書館内で開催された企画展示
戦前の出版検閲を語る資料展「検閲の基準 —発禁になった本、ならなかった本—」
2012年12月24日(月)～2013年3月17日(日)



画像 DVD や web からアクセスできる検索システムが整備され、調査環境が整ってきている。さらに昨年は、出版検閲をテーマとした国際シンポジウムが早稲田大学で開催されるなど、内務省委託本をめぐる状況は大きく変化した。

人びとから忘れられて閉架書庫に点在していた戦前発行書籍約 2300 冊が、内務省委託本として多くの方に注目されるに至るまでの 8 年間に何があったのか。今号の調査レポートは、企画展示や講演会などを通して特別コレクションの活用に関わってきた担当者が、時系列に沿ったその整理状況と内部の事情について概要を紹介するものである。

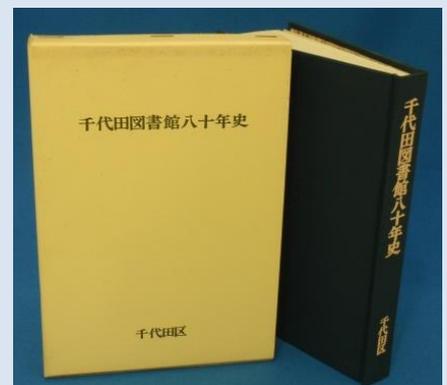
内務省委託本が駿河台図書館に委託された当時やその後についての記録は、『千代田図書館八十年史』や「東京市の図書館と其の事業」などに僅かに残されているのみである。いま私たちが「あのころは、どうだったのだろうか？」疑問に思うことがあるように、もしかすると、後の時代に内務省委託本について研究する方が「2010 年ごろはどうだったのだろうか？」と疑問を持つかもしれない。そのようなときに、今号がわずかでも参考になればと思う。また、図書館関係の方には、ほとんど研究が行われていない分野の「詳細がよくわからなかった資料群」の整備の一事例として、他山の石としていただければ幸いである。

なお、展示や講演会、資料集などの内容については、千代田区立図書館のホームページやパンフレットなどの発行物をご参照いただきたい。表中は敬称を略させていただいた。

千代田区立図書館ホームページ内「内務省委託本」ページ
<http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/findbook/naimusho/>

2006 年以前

2006 年以前の内務省委託本については断片的なことしかわからないが、筆者が把握しているなかで一番詳しい情報は、『千代田図書館八十年史』（千代田区発行、1968 年）に「検閲ガラの図書」「千代田図書館の内務省委託本」「内務省本の実例」と題して紹介されているものである。次に内務省委託本に動きが出てくるのは 2002 年ごろで、浅岡邦雄氏が「再発見」と言われる件である。その経緯を、調査レポート「内務省委託本調査余滴」から引用しておく。



これらの資料が「再発見」され注目されるようになった契機は 10 年ほど前、当時白百合女子大学図書館に勤務していた浅岡邦雄氏（現・中京大学教授）が『千代田図書館八十年史』に書かれていた資料の閲覧に赴いたことから始まっている。

浅岡氏によれば、当時、「内務省委託本」について知る職員は誰も居なかったという。

幸い千代田図書館はこの資料の重要性をすぐに認識し、戦前図書の中から「内務省委託本」をピックアップするという作業を何段階かにわたっておこなった。

安野一之氏「内務省委託本調査余滴」（「内務省委託本調査レポート」第 1 号）より

上述のようにこの当時、内務省委託本は特別なコレクションと位置付けられておらず、一部を除き貸出にも供されていたようである。浅岡氏の訪問をうけて、千代田図書館は書庫出納などで戦前資料を手にする折に「その本に内務省の検閲の痕跡があるかどうか」を確認して、該当する場合は書誌データに「内務省委託本」というキーワードを付与していったようである。キーワードが付与されたことによって、OPAC や Web-OPAC で抽出が可能になっていったが、網羅的な全点調査ではないため全体像の把握はできていなかった。

また、このころ浅岡氏が『千代田図書館八十年史』の図版等で紹介されている内務省委託本を閲覧したところ、検閲官のコメントや内務省印が遺されていた見返しが他の紙に差し替えられていたものが数点あった。どうやら『千代田図書館八十年史』が発行された後の時代に、利用のため劣化・汚破損した書籍の修理として再製本が行われ(修理の一環で劣化・汚破損した表紙を新しいものに付け替えることがあり、その際に見返しの遊び紙も失われることが多々ある)、当時は特別扱われていなかった内務省委託本もその修理対象になったようである。

コレクション整備年表(2006 年度～2013 年度)

(敬称略)

2006(平成 18)年度	
6 月	① 「千代田図書館アドバイザー会議(出版関係)」の設置
11 月	② 「千代田区立図書館出版関連資料コレクション構築方針」の作成
3 月	③ 旧館閉架書庫から、「内務省委託本」を抽出。コメントあり、コメントなしにわけ
2007(平成 19)年度	
4 月	④ 新庁舎へ移転、千代田区の文書庫に仮置き
夏	⑤ 千代田区の文書庫内で仮配架、展示準備開始
1 月	⑥ 企画展示「今に遺る検閲の痕跡」を開催
2 月	※展示に関連してプレス向けお披露目会を開催
2 月	● 展示関連講演会「戦前内務省における出版検閲-昭和初期を中心に-」(浅岡邦雄)を開催
3 月	● パンフレット「千代田図書館蔵内務省委託本」を発行
	⑦ 旧内務省図書課に在籍した方の旧蔵資料を受贈
2008(平成 20)年度	
4 月	● アンコール・ミニ展示「今に遺る検閲の痕跡」を開催
8 月	● 講演会「戦前内務省の出版検閲 PART2: 禁止処分のいろいろ」(浅岡邦雄)を開催
2009(平成 21)年度	
	⑧ 資料集作成のため、傍線や検閲官印の有無について調査を実施

2010(平成 22)年度	
8 月	● コレクションの活用促進のため、出版社の編集者を対象に内務省委託本について概要を解説(安野一之) ⑨ 資料集作成のため、コメントや傍線部分について写真撮影
1 月	● 企画展示「浮かび上がる検閲の実態」を開催
1 月	● ミニ展示「発禁本の境界」を開催
1 月	● 展示関連講演会「いつ・だれが・どのように検閲したのか」(安野一之)を開催
2 月	● 展示関連講演会「戦前期の発禁本のゆくえ」(大滝則忠)を開催
2 月	● パンフレット「千代田図書館蔵 内務省委託本 & 出版検閲コレクション」を発行
冬	● 旧内務省図書課に在籍した方の旧蔵資料の整理(出版検閲コレクション)として公開
3 月	⑩ 資料集『千代田図書館蔵「内務省委託本」関係資料集』を発行
2011(平成 23)年度	
6 月	● ミニ展示「出版検閲へのアプローチ」を開催
7 月	● 展示関連講演会「戦前期の出版検閲と法制度」(浅岡邦雄)を開催
9 月	⑪ 第 1 回内務省委託本研究会を開催
3 月	● 第 2 回内務省委託本研究会を開催
2012(平成 24)年度	
6 月	● 第 3 回内務省委託本研究会を開催
10 月	⑫ 千代田区の文書庫から、図書館の閉架書庫へ内務省委託本を移動 ⑬ 画像 DVD および検索システム(WEB 版)制作のため、書誌をブラッシュアップ ● 画像 DVD および検索システム(WEB 版)制作のため、画像を整理
1 月	● 企画展示「検閲の基準-発禁になった本、ならなかった本-」を開催
1 月	● ミニ展示「奥付と検閲と著作権」を開催
1 月	● 展示関連講演会「奥付-誰が何のために-」(浅岡邦雄)を開催
1 月	⑭ DVD「千代田図書館蔵内務省委託本画像 DVD」を発行
2 月	● 展示関連講演会「出版検閲と伏字記号」(牧義之)を開催
3 月	● 展示関連講演会「出版検閲研究の最前線」(浅岡邦雄・安野一之)を開催
3 月	⑮ 経年劣化の著しい内務省委託本を修復
3 月	● 第 4 回内務省委託本研究会を開催 ⑯ 千代田図書館蔵「内務省委託本」調査レポートを発行 1 号:内務省委託本調査余滴(安野一之) 2 号:高橋是清『随想録』(安野一之) 3 号:石上欣哉『女優情史』のことなど(尾崎名津子) 4 号:寶來正芳『探偵常識』(村山龍) 5 号:医学書の検閲(新井正人) 6 号:内務省発行『図書日報』と納本事務(牧義之)
2013(平成 25)年度	
4 月	⑰ Web 版検索 & 管理システムを公開
5 月	● 展示アーカイブ「奥付と検閲と著作権」を作成

7月	● 第5回内務省委託本研究会を開催
3月	● 第6回内務省委託本研究会を開催
	● 千代田図書館蔵「内務省委託本」調査レポートを発行
	7号:「『国民医術天真法』と肥田春充」(尾崎名津子)
	8号:「写真から読み解く、天皇を巡る検閲」(安野一之)
	9号:「コレクション整備の記録(2006～2013年度)」(河合郁子)

年表補足

2005年度から筆者は千代田図書館に着任した。このころは内務省委託本について事務を直接担当していないが、当時の担当者から引き継いだ資料をもとに、整理等の概要を記す。

① 「千代田図書館アドバイザー会議(出版関係)」の設置

② 「千代田区立図書館出版関連資料コレクション構築方針」の作成

千代田区役所と千代田図書館は2007年に新庁舎へ移転することが決まっており、その機会に合わせて、図書館に出版社や書店・古書店など出版に関連する企業が多い千代田区ならではの特色を作ろうという動きが出てきた。すでに整理され公開されていた古書販売目録コレクションの存在に加えて、内務省委託本の存在や出版関連資料の寄贈が打診されたことなどを受けて、柳与志夫氏(当時の千代田図書館長)が「千代田図書館アドバイザー会議(出版関係)」を設置し、出版の歴史や流通、出版文化など各方面の専門家(浅岡邦雄氏、八木壮一氏、ほか3名)からアドバイスをいただきながら、資料のコレクション化と特色について検討を行った。そして、11月「千代田区立図書館出版関連資料コレクション構築方針」をまとめた。ここから、内務省委託本のコレクション化が始まったと言えるだろう。

③ 旧館閉架書庫から、「内務省委託本」を抽出。コメントあり、コメントなしにわけ

2007年1月～2月頃、千代田図書館(旧館)の閉架書庫の資料・約9万冊の全点調査を行い、「その本に内務省の検閲の痕跡があるかどうか」を確認し目印をつけていった結果、約2300点が内務省委託本としてカウントされた。この調査は、浅岡氏監修のもと(株)日本ブッカーに委託された。

2007年の5月から新庁舎でのリニューアルオープンに備えて、3月末～4月は千代田図書館は休館して移転作業を行った。その際に、内務省委託本はまとめて段ボールに詰められ、その段ボールは新庁舎の図書館閉架書庫へ運び込まれた。

④ 新庁舎へ移転、千代田区の文書庫に仮置き

新庁舎に移転してみると、閉架書庫の容量が旧庁舎よりも少ないため、閉架書庫内には内務省委託本を収容する書棚を設けられないことが判明した。千代田区所管課の取り計らいで、千代田区の文書庫に仮置きのスペースが用意され、内務省委託本は段ボール詰めのまま文書庫に移動した。しかし、その後は段ボールから出されることもないまま、棚に置かれていた。

ここで、少し言い訳めいた事情を書かせていただく。リニューアルオープン後の千代田図書館は、指定管理者制度での運営になり、職員がほぼ全員入れ替わった。施設の移転、運営の引き継ぎ、

新しいコンセプトへの対応、予想を大きく上回る来館者数など、図書館の現場は日々の対応におわれた。利用頻度が低い内務省委託本の整理に、なかなか手が回らなかった。

⑤ 千代田区の文書庫内で仮配架、展示準備開始

それでも「2007 年度中に内務省委託本の企画展示を開催しよう」ということになり、企画展示準備のためにまずはダンボールを開け、図書をとり出すことになったが、上述のとおり図書館職員にはその作業時間を生み出すことはまだできなかった。

そこで、千代田図書館外に協力を求めたところ、新谷迪子氏(指定管理者社員で、後 2009 年から 2012 年まで千代田図書館長)と上野允子氏(千代田図書館サポーターズクラブ会員(当時))が、

文書庫の中で段ボールを開けて、内務省委託本を一冊ずつ棚に並べる作業を行うことになった。内務省委託本を手にとって見るできるようになり、次に、新谷氏・上野氏は 1 冊ずつ中を確認して、傍線が引かれているものに短冊を挿み込んでいった。これでようやく、展示の準備を本格的に始めることができるようになった。



区の文書庫の棚に並べられ、短冊が挿まれた内務省委託本

浅岡氏を展示の監修に迎え、図書館職員と浅岡氏が文書庫で調査を行い、展示用パネルの原稿を書いていた。

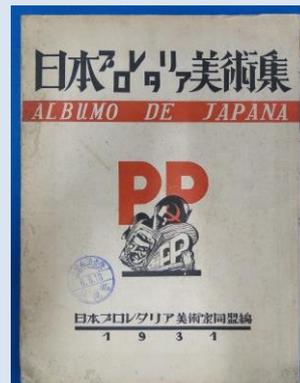
⑥ 企画展示「今に遺る検閲の痕跡」を開催 ※展示に関連してプレス向けお披露目会を開催

大型パネルを製作し関連書籍を揃え、「内務省委託本とはどのようなものなのか」を紹介する企画展を開催した。展示に先立ちプレス向けのお披露目会を開催したところ、多くのプレスが参加し、図書館が把握しているだけで新聞 10 紙に掲載され、テレビ 2 番組で放映された。それらによって展示を知った方が多数来館して、熱心に展示をご覧になっていた。また、出版関係の研究者の間でも大きな反響があった。パネルデータをもとにパンフレットを 1000 部作成したところ、好評を博した。

⑦ 旧内務省図書課に在籍した方の旧蔵資料を収納

展示期間中に、旧内務省図書課に在籍した方のご子息から、「亡父が所蔵していた書物の中に、内務省委託本にあるような印が捺されているものがあるので寄贈したい」というご連絡をいただいた。内務省委託本とは意味が少し異なるが、警視庁による押収印や内務省による印など出版検閲の痕跡が遺る書籍を 30 点ご寄贈いただき、2010 年度から「出版検閲コレクション」という名称で整理・公開している。

『日本プロレタリア美術集 1931 年度』
(日本プロレタリア美術家同盟、内外社、1931 年 7 月)
千代田図書館所蔵「出版検閲コレクション」



⑧ 資料集作成のため、傍線や検閲官印の有無について調査を実施

⑨ 資料集作成のため、コメントや傍線部分について写真撮影

2007 年以降は、内務省委託本は OPAC の検索対象に含まれていなかったため、閲覧希望の方にはカウンター置きの簡易目録で検索いただいていた。研究者をはじめ出版検閲に関心のある方からは、目録の作成・頒布が望まれていた。

内務省委託本の特徴的な検索項目として「内務省で捺された印の有無」「検閲官によるコメントの有無」「検閲官印の有無」などの情報を付加した目録を作成するために、内務省委託本の全点を調査することになった。調査は、浅岡氏の監修のもと、安野一之氏、尾崎名津子氏、村山龍氏、新井正人氏が担当した。そのときの様子については、安野氏の調査レポート「内務省委託本調査余滴」をご参照いただきたい。

また発行物には、図書目録に加えて、「内務省委託本とはどのようなものか」「各種の印」「検閲官コメントの例」「調査事例」といった内容の章を設け、これ 1 冊で千代田図書館の内務省委託本の概要がわかることを目指して、目録以上の役割を持つ「資料集」として発行することになった。代表的な内務省委託本について、見返しに残された各種印や検閲官のコメント、赤鉛筆・青鉛筆で本文に引かれた傍線が見られるページを写真撮影し、「資料集」作成の準備を進めた。

⑩ 『千代田図書館蔵「内務省委託本」関係資料集』を発行

『千代田図書館蔵「内務省委託本」関係資料集』（以下、資料集）が刊行された。予算の都合上、内部の印刷室で印刷を行ったため、カラー図版ページの印刷クオリティに限界があったものの、内容には大きな反響があり購入や寄贈依頼の問い合わせが全国から寄せられた。2014 年 3 月までに、購入・寄贈合わせて 450 部が頒布された。読者は研究者のみならず、購入者の約半数は一般の方と推察される。



⑪ 第 1 回内務省委託本研究会を開催

資料集作成のため全点調査にあたった研究者の方々は、内務省委託本を研究する意義や資料的価値に魅了された。浅岡氏を中心として「内務省委託本研究会」が発足し、年に 2 回、内務省委託本を題材としたテーマで調査・発表が行われるようになった。そして、その成果が研究者の方々と図書館で共有され、当レポートや展示・講演会等など、発表の場へと結実している。

⑫ 千代田区の文書庫から、図書館の閉架書庫へ内務省委託本を移動

東京都立日比谷図書館が千代田区に移管され、千代田区立日比谷図書文化館としてリニューアルオープンするに伴い、千代田図書館で所蔵していたコレクションのうち内田嘉吉文庫を日比谷図書文化館に移管することとなった。内田嘉吉文庫を収容していたスペースが空いたので、内務省委託本を区の文書庫から 10 階の図書館の閉架書庫に移動することできた。区の文書庫に配架されていた時は、利用者の出納は週に 1 回と制限があったが、10 階閉架書庫に配架されてからは毎日出納が可能となり、調査・研究の環境が向上した。

⑬ 画像 DVD および検索システム(WEB 版)制作のため、書誌をブラッシュアップ

資料集に収録された目録によって内務省委託本を通覧できるようになったので、次は、書名や傍線の有無などから検索できるシステムの構築を目指すことになった。2006 年度末までは一般の図書館資料として利用に供されていたため、書名・著编者・出版社・出版年等の書誌情報は既にあったものの、間違いなどもあり精査が必要だった。そのため千代田図書館の司書達が通常業務の合間を縫って全点の現物照合をし、書誌の再確認を行った。

⑭ 「千代田図書館蔵内務省委託本画像 DVD」を発行

内務省委託本はどなたでも閲覧していただけるのだが、事前の閲覧申請が必要となっている。そこで、気軽に検閲正本の情報を得ていただくため「検閲官による印やコメント、傍線などの検閲の痕跡が見られるページ」を撮影した画像(著作権保護期間が終了したもののみ)を収録した DVD を発行することとなった。



⑮ 経年劣化の著しい内務省委託本を修復

表紙やページが外れたり破れたりした経年劣化の著しい内務省委託本について、補修とドライクリーニング等を行った。博物館資料的な側面を持つ内務省委託本の価値を損なわないように、貴重資料のための専門的な修復作業を(株)資料保存器材に委託した。これまで劣化のため閲覧や展示などできなかった資料も、この修復により利用できるようになった。



修復された内務省委託本
(左)修復前、(右)修復後

⑯ 千代田図書館蔵「内務省委託本」調査レポートを発行

内務省委託本研究会での調査・研究の成果を、一般の方に向けて発信する「調査レポート」の発行を開始した。不定期発行だが、2012 年度は 6 号を、2013 年度は今号を含めて 3 号を発行した。2013 年 3 月までの図書館内での総配布数は 2,300 部を超え、このほかホームページ上の PDF データにも多数のアクセスがあった。多くの方に内務省委託本や出版検閲に関心を持っていたことがわかる。

⑰ Web 版検索 & 管理システムを公開

2008 年からの課題だった Web から検索できるシステムを、2012 年度末に行われた図書館システムのバージョンアップのタイミングに合わせて構築することができた。これにより、資料集や DVD がなくても簡単に内務省委託本を検索することができ、また著作権保護期間が終了している資料の検閲の痕跡が遺るページの画像(DVD に収録さ



れたもの以外、及び後述の代表的な数冊)を web から閲覧でき、プリントすることができるようになった。また、一般の方にも気軽にアクセスしてもらえよう、検索システムと図書館のホームページを連動させ、内務省委託本の全体像が掴めるような代表的な数冊を紹介した。加えて、図書館が書誌や画像、著作権の状況などを管理するための機能を設け、今後の活用に備えている。

おわりに

こうして整備の過程を振り返ってみると、旧館の閉架書庫 9 万冊から内務省委託本を約 2,300 冊を抽出した後、検閲の痕跡を確認するための全点調査を行い、さらに書誌を確認するための全点調査を行うなど、調査や研究の進展と整備がいかに手さぐりだったかがよくわかる。内務省委託本は、8 年前までは千代田図書館を利用する方のほとんどが存在すら知らない「閉架書庫の中にある、古くて現代ではほとんど役に立たないもの」であった。展示・講演会など一般の方にもわかりやすい形でご覧いただけるようになった裏側には、このような紆余曲折があり、それは図書館の内部者だけでは進めない道であった。調査・研究を図書館と二人三脚で進めてくださった研究者、支援してくださった関係者、そして展示をご覧になったり講演会に参加してくださった皆様に、この場を借りて改めてお礼申し上げる。

Web 版検索 & 管理システムの公開をもって、調査・研究のための環境整備は一段落したと考えている。これからも多くの方に内務省委託本を使っていただき、その成果について図書館を通して広く社会に発信していただきたい。出版検閲をはじめとする諸研究が進展すること、そして戦前の出版検閲の事例を通して、「言論の自由」や「知る権利」などのテーマに関心を持つ人が増えることを切に願っている。

---Written by-----

河合郁子

2005～2006 年、千代田区立千代田図書館 図書館専門員（非常勤司書）。

2007 年より、千代田区立図書館指定管理者の構成企業である（株）シェアード・ビジョンに入社し、千代田図書館 企画チーフとして展示やイベント等の企画・実施のほか、内務省委託本などの特別コレクションの活用を担当。

千代田図書館蔵「内務省委託本」のご利用について

- 「内務省委託本」は閉架書庫に保管しており、事前に申請いただければ、どなたでも閲覧・撮影いただけます。
- 検索には、千代田図書館ホームページから「内務省委託本検索システム」、もしくは『千代田図書館蔵「内務省委託本」関係資料集』掲載の目録をご利用ください。（OPAC、Web-OPAC には対応していません）
- 詳しくは図書館職員までお問い合わせください。

発行：千代田図書館「内務省委託本」研究会 ※本資料内容の無断転載はご遠慮ください。

お問い合わせ：千代田図書館・企画「内務省委託本」担当 電話 03-5211-4290